

## 表紙の人

# 中央大学初の 女子応援団リーダー部員 夏合宿乗り切り、 神宮球場でデビュー

文学部1年

府木真衣さん



### ◆学ランにポニーテールが似合い◆

高い詰め襟の学ラン（学生服）にポニーテールが跳ねる。腕を振り、声を張り上げ、試合開始前から試合終了まで2時間余り、休む間はない。声はかすれ、額からは汗が流れ落ちる。先輩の男子応援団員と変わりなく、激しく動き回る姿に女子だと気付く人は、少ない。

その人は、府木真衣さん（文学部1年）。20

10年に創立125周年を迎える中央大学で、歴史初めでの女子応援団リーダー部員だ。全国の大学でも応援団リーダー部の女子部員は数えるほどしかない。

9月5日の神宮球場。東都大学野球秋季リーグ戦の開幕戦で、府木さんはデビューした。この日は土曜日とあって、普段と比べ多くの中大OBらに応援に駆けつけた。その中には永井和之総長・学長の姿もあった。府木さんは、緊張を押しさえき

れずにいた。

### ◆神宮球場のリーダー台に立つ◆

青山学院大に2点を先行されて迎えた7回ウラの中大の攻撃、その直前になって応援団の大内学団長から府木さんは、「リーダー台に立て」と指示された。府木さんは「全く予期していなかった」。突然の指名に、緊張感が一気に高まった。

1年生がスタンド最前列に設えたリーダー台に立つのは、異例だ。中大応援席に向かって、府木さんは先輩に教わって覚えた段取り通りに、懸命に腕を振り上げ、足でキリを踏んだ。功を奏したのだろう。その回、中大は1点を入れ、応援席は大いに盛り上がった。



応援団旗



まだ学ランは2年生の先輩に借りている

学ラン姿の応援団に対しては、大抵は「きつい」「厳しい」などというイメージがついて回るのではないだろうか。記者もそう思っていた。男子学生でも入部するのを尻込みしてしまいそうな応援団リーダー部に、女子学生がなぜ入部したのだろう。それを聞き出したくて、府木さんに会った。

### ◆華奢で穏やかな口調の女子学生◆

きつと気迫のある、体格のしっかりした人なの

だろう、と府木さんに会う前、記者は勝手に予想していた。だが実際の府木さんは、どちらかと言えば華奢であり、穏やかな口調が印象的な普通の女子学生だった。

「応援団というのは、どういうものなのか全然知らなかったんです。高校には応援団はなかったの……」と府木さん。のっけから予想外な言葉が返ってきた。「高校時代は『帰宅部』でした」という。

「大学では部活かサークルに入りたい」と、中大に入学して新歓の時に吹奏楽部、アーチェリー部、ゴルフ部などを見学して回った。だが、周りの学生がサークルに入り始めた6月になって、なかなか部活を決められずにいた。「早く部活を決めなきゃ」と思っていた先に目に入ったのが、応援団リーダー部が新入部員を勧誘するポスターだった。

### ◆応援団ってナニ？知らずに門たたく◆

「大学生活では青春っぽいことがしたい」。応援団が、そういうものだかも知らずに入った動機は、軽い乗りだった。でも、応援団の門をたたいた時、先輩から「マネージャーをやりたいのか」と聞かれた際に、府木さんは「いいえ」とはっきり答えた。

入部を決めて母親からは、「いいんじゃない」と言われ、何も反対されなかった。父親にはしばらく経ってから話をしたが、「へえー、変な子だね」という反応だったという。

応援団は、礼儀にとっても厳しくて、「いろいろな礼儀を教わります」と府木さん。例えば、返事は必ず「押忍（オス）」。先輩と会った時の挨拶は「〇〇先輩、ちわーす」。そして、先輩から何か



普段は普通の女子学生

物を渡されたときは、必ず「どうもごつつあんで  
す。御預かり致します」と言う。

普段の大学生活では使い慣れない言葉が並ぶ。  
「最初は抵抗がありました。何で押忍（オス）な  
んだらうって…（笑い）。でも今では、自然に押忍つ  
て言っちゃいます」。

### ◆夏合宿で一番辛かったのは食事◆

8月下旬、府木さんは応援団リーダー部の夏合

宿に参加した。応援団リーダー部の部員は現在6  
名。合宿には15人のOBが駆けつけ、動きなどを  
指導してくれた。「50代、60代くらいのOBの方  
が多いです。応援団はOBとの繋がりが、特に強  
いと思います」。府木さんは、夏合宿で先輩を思  
う先輩たちの気持ちの深さを感じた。

「夏合宿で一番辛かったのは、食事です」とま  
たまた意外な答えが返ってきた。「出された昼ご  
飯のなかのご飯の量が、おかしいんです」。弁当

は大きく、ご飯のスペースがとでも多かった。男  
子学生向けの大きさの弁当を、同じ時間内に、府  
木さんも食べなければならなかった。「こんなに  
白いご飯は食べられないと思いました。それが一  
番辛かったです」。

練習では、基礎体力をつける。いつも腕立て伏  
せを30回やるが、「苦手です」という。校歌を歌  
いながら、両足を上げて、上半身とでV字をつく  
るV字腹筋を行う。これも大変きついに違いない。

### ◆「経験は社会人になって役に立つ」◆

応援団リーダー部に入学して、夏合宿を体験し、  
神宮球場デビューも果たした府木さんの今の目標  
は、「応援団の活動を続けること」だ。現在、1  
年生部員は府木さん、ただ一人。責任もかかって  
くるが、「応援団の経験は社会人になったら役に  
立つと思うので頑張ります」と覚悟は固い。

府木さんは最後に、「応援団は礼儀は厳しいで  
すが、先輩はみなさん優しいです。あと2人くら  
い、男子部員が入って欲しいです。女の子も歓迎  
です」と応援団をPR。府木さんの話を聞き、記  
者の応援団に対するイメージは大きく変わった。

（学生記者 西野美雪 法学部3年）